

イギリスの小学校体験記

2007年4月から1年間、イギリスのケンブリッジ大学で研修する機会をいただいた。見聞を広げるとともにイギリスの事物を通して自分の頭の中を整理することができた。家族を連れて行ったので、私同様に妻と息子も1年間のイギリス生活を楽しんだ。ここでは息子が1年間通った小学校について紹介する。日本の小学校との違いはいくつかあるけれども、似た部分も多い。いずれにしても日本で保育園に通っていた息子にとっては初めての学校であり、苦労は多かったが楽しい思い出もできたようだ。

Newnham Croft Primary School

子供の通っていた小学校は「ニューナムクロフト小学校」という公立の小学校である。クラスは幼稚園、幼稚園と1年生の混合クラス、1年生と2年生の混合クラス、2年生から6年生までのそれぞれの学年のクラスとなっていた。幼稚園クラスが小学校と一緒に運営されるのはごく一般的なことのようにだ。1,2年生が学年混合クラスとなっている理由はよく分らない。

この小学校はケンブリッジ中心部に近いため、我々がいた当時は外国人が全体の約4割であった。ただし外国人すなわち研修・留学生一家というわけではない。親は仕事を求めてきたチリ人、卒業して会社を作ろうとするインド人など国籍のみならず立場も多種多様であった。

イギリスの小学校は9月に満5歳の子供が入学する。日本の子供にとっては半年から1年半早い学年進行である。5月生まれの我が息は1年生として6ヶ月、残りの6ヶ月を2年生として過ごし、2008年4月に日本に戻ってふたたび1年生に「落第」した。

学費はまったくの無料であり、教科書はもちろんのことノート鉛筆まで学校で用意される。ニューナムクロフト小学校では基本的に教科書は使わず、先生お手製のプリントで授業が行われていた。

小学校の1日

朝は8時40分から50分までに登校せよ、という決まりであった。朝の付き添いは僕の担当であった。学校まで大きな公園を通り抜けて徒歩10分。ちなみに付き添いは、「1・2年生は必須、3・4年生はなくてもよく、5・6年生は不要」であった。学校の安全管理はかなり厳重である。この時間帯以外の校門は閉じられており、遅刻したときなどは別にある事務室のドアを内側から開けてもらわねばならない。放課後のサッカークラブの時間帯には、親でさえ学校の敷地内にはいることは許されなかった。

さて、朝に学校に到着すると教室に行く前にいろいろやることがある。持参した弁当を屋外の「弁当台」のうえに並べる。ロッカールームのフックに上着をかける。自由に持ち出してよい本棚から借りた本を返して新しい本を借りる、など。

教室に入ると黒板に「朝の自習課題」が用意されている。内容は「計算問題」や「単語の書き取り」など先生がいなくともできる簡単なものが多かった。月曜日には「週末にやったことを絵に描きましょう」なんてこともある。教室には5つほどのテーブルがあり銘々自由に座ることができる。座席は決まっていない。児童は自分用の小さなホワイトボードを持っており、それぞれ自習課題をやる。

9時から授業が始まる。1クラスの人数は20~25人程度である。小さい学年ほどティーチングアシスタントの人数が多い。1年生のときは2人のアシスタントがいて、息子のように英語ができない子供の世話をしてくれた。10時半ごろにおやつがある。リンゴ、キュウリ、ミカン、ニンジンスティック、バナナなど。

12時に昼食をとる。昼食は給食と弁当を選ぶことができる。息子ははじめこそおとなしく給食を食べていたものの、しばらくすると給食を拒否し、毎日弁当を持って行くようになった。給食は牛肉の煮込み、ラザニア、スパゲティ、ゆで野菜、フライドポテトなどイギリス料理が

多いが、たまにあやしげな中華風焼きそばができることもあるようだ。温かい物を食べることができるし、ケーキやアイスクリームなどのデザートもあるのだけど、息子にとって毎日給食を食べるのは飽きるようで、結局ほぼ毎日おにぎり、巻き寿司、唐揚げなどをお弁当として持参していた。イギリス人にふりかけをプレゼントしてその反応を面白がったりしていたらしい。

午後の授業は1時から3時まで。3時過ぎには迎えにいかなくてはならない。子供たちが教室から飛び出してくると同時に先生も出てくるから、その日の様子を聞くことができる。朝昼の送迎はわずらわしいものであるが、担任の先生、クラスメイト、親たちと毎日顔を合わせるのはいいことではない。先生にすぐに何でも相談できるし、子供たちと話すのは楽しい。子供同士のトラブルがあったときなどはすぐにその親と話すこともできる。

放課後はクラブがある。息子は月曜日のサッカークラブに入っていた。ほかにはダンス、算数、音楽、料理、フランス語などがあったようだ。

小学校の行事

運動会、修学旅行、社会見学、学芸会などの楽しい行事はイギリスの学校にもある。日本と違うのはそれらがすべて学期の最後に集中して配置されていることだ。日本では学期の途中にやることが多いが、イギリスでは学期の主要な部分は勉強に専念し、行事は休暇前に集中的に行われていた。

学校の教育方針

ニューナムクロフト小学校といま現在息子の通っている日本の公立小学校のことしか知らないのだから、イギリスと日本の違いを述べる資格はない。よってこれから述べる事柄は少ない経験から感じた違いというだけである。

日本では協調性を重視し、クラス全体で明確な目標を立てて皆ができるようになることに重きを置き、周りを見て行動するように指導され

る。イギリスは、自主性を重視し、子供によって個別の目標が設定され、自分の意志を明確に表現することが求められる。むしろ日英どちらでも協調性と自主性は必要なことであるが、優先順位には多少の違いが感じられた。

日本に帰ってきて

先に述べたように、息子は帰国して新入生として1年生に逆戻りした。イギリスの小学校がよかったと言っていたこともあったが、しだいに英語とともにイギリスのこと忘れつつあるようだ。むしろ親の方がイギリスとの違いにとまどっており、日本の小学校はいろいろと不思議なことがあると思うことがある。

(みうらひでとし/不動産のための数学基礎、
数理解析、GIS 演習)

